

## 【概要・背景】

昨今の周産期医療の崩壊に伴い、分娩施設や産科スタッフの減少は危機的な状況にあり、特に鹿児島県はへき地・離島地域を多く抱え、その状況は深刻である。特に大隅半島は鹿児島市までの移動距離も長く、今後、産科医や助産師以外の医療スタッフ、地域消防隊が分娩を含む産科救急に対応せざるを得ない状況が多くなると予想される。実際、全国消防本部に対するアンケート調査(隠岐病院加藤一朗医師による調査)では、2010年の1年間には734件の病院外での分娩事例が存在した。日常的に周産期領域に携わる医療従事者に対するAdvance Life Support in Obstetrics (ALSO)に対し、ここ数年、主に病院前産科救急を想定して、ALSOの前段階の産科救急基礎コースとも言えるトレーニングコースが、世界中で実験的におこなわれるようになった。

「産科救急に遭遇する可能性があるプロバイダー全てが標準化されたコースを学び、救急救命士から救急部スタッフ、産科医へと連携をとることで妊産婦死亡・後遺症を減らすことができるのではないか」という観点に立ち、周産期のより切迫した内容へ対応するために基本的なトレーニングコースとして作成されたのがBasic Life Support in Obstetrics (BLSO)である。

コースの内容は、分娩介助・新生児蘇生・女性傷病者の評価・救急車内分娩・症例検討であり、BLSOコースを受講し、試験に合格した場合、参加者は米国家庭医療学会とALSO-Japanが認定する5年間有効な認証を受けられる事ができる。

開催日時：H29年5月13日(土)・14日(日)  
08時30分～17時00分(予定)  
(コースは1日間で、2日間開催します。)

**開催場所：鹿屋医療センター(鹿児島県鹿屋市)**

主催：鹿屋医療センター

受講対象：救急隊員、看護師、医師、学生など

受講料：10,000円

受講定員：12名 × 2日間(13日か14日のいずれかを受講)

## 【講習スケジュール(予定)】

講習内容	時間
受付	8:30-8:45 (15分)
イントロダクション	8:45-9:10 (25分)
分娩介助	9:10-10:10 (60分)
新生児蘇生	10:20-11:20 (60分)
女性傷病者の評価	11:30-12:50 (80分)
昼食	12:50-13:20 (30分)
試験準備	13:20-13:50 (30分)
筆記試験・実技試験・ 救急車内分娩 症例検討	13:50-16:50 (180分)
クロージング	16:50-17:00 (10分)



公式テキスト: 受講決定後、教育提供サイトからダウンロード  
購入推薦図書:  
『日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト』  
田村正徳(監修)メジカルビュー社  
『病院前救護のための産科救急トレーニング』  
新井隆成監訳 中外医学社

### 【申し込み・連絡先】

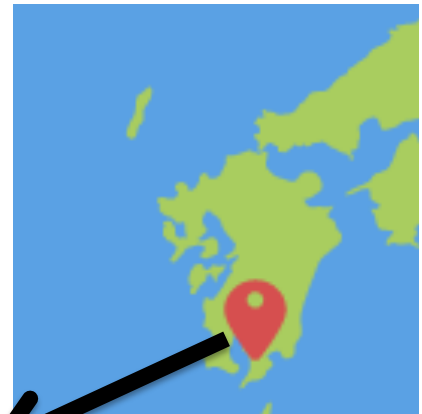
鹿屋医療センター産婦人科 折田有史

電話: 0994(42)5101

下記URLもしくはQRコードを読み取り、申込み  
フォームからお申込みください。

[http://my.formman.com/form/pc/  
kxcDrw36J0e0pVYG/](http://my.formman.com/form/pc/kxcDrw36J0e0pVYG/)





県民健康プラザ  
**鹿屋医療センター**  
 鹿児島県鹿屋市礼元1丁目8-8  
 Tel:0994-42-5101

